

静脈奇形硬化療法の指針 第一版

2026年4月

静脈奇形硬化療法適正実施管理委員会

本指針は日本形成外科学会、日本IVR学会、日本静脈学会、日本小児外科学会の代表者等で構成される日本血管腫血管奇形学会内「静脈奇形硬化療法適正実施管理委員会」の協議の下で作成された。

静脈奇形硬化療法適正実施管理委員会

委員長	尾崎 峰 (杏林大学医学部 形成外科学)	◎※*
委員	杠 俊介 (信州大学医学部 形成外科学)	◎※*
委員	野村 正 (国立病院機構神戸医療センター 形成外科)	◎※*
委員	三村 秀文 (聖マリアンナ医科大学医学部 放射線診断・IVR学)	◎#
委員	大須賀 慶悟 (大阪医科薬科大学医学部 放射線診断学)	◎#*
委員	赤羽 正章 (国際医療福祉大学医学部 放射線医学)	#
委員	和田 慎司 (聖マリアンナ医科大学医学部 放射線診断・IVR学)	◎#*
委員	広川 雅之 (お茶の水血管外科クリニック)	*
委員	藤野 明浩 (慶応義塾大学医学部 小児外科学)	◎*○

技術専門委員	林 礼人 (横浜市立大学医学部 形成外科学)	◎※
技術専門委員	荒牧 典子 (慶応義塾大学医学部 形成外科学)	◎※
技術専門委員	彦坂 信 (国立成育医療研究センター 形成外科)	※
技術専門委員	藤澤 興 (東京大学医学部 形成外科学)	◎※
技術専門委員	清家 志円 (大阪大学医学部 形成外科学)	◎※*
技術専門委員	東原 大樹 (大阪大学医学部 放射線統合医学)	◎#
技術専門委員	小野 祐介 (大阪大学医学部 放射線統合医学)	#
技術専門委員	金森 大悟 (住友病院 放射線診断科)	#

所属学会

◎：日本血管腫血管奇形学会、※：日本形成外科学会、#：日本IVR学会、*：日本静脈学会
○：日本小児外科学会

- **実施医基準**

- ① 対象技術の研修プログラム（e-learning）を受講したもの。
- ② 形成外科専門医、IVR 専門医、脈管専門医、小児外科専門医であること。
- ③ ②の資格がない医師は①の研修プログラムを受講し、①の研修を受けた②の資格をもつ医師の直接指導の下で施術すること。

- **施設基準**

X 線撮影装置（DSA (Digital Subtraction Angiography) が可能な装置）を備えていること。

- **適応**

疼痛、機能障害もしくは日常生活に影響を及ぼす整容性の問題などの症候を伴う静脈奇形
※後天性の一次性ならびに二次性静脈瘤は適応外であることに留意すること。

- **禁忌**

- ① モノエタノールアミノレイン酸塩または造影剤に対するアレルギー
- ② 眼窩深部の病変
- ③ 妊娠中の女性、授乳中の女性
- ④ 重篤な凝固障害
- ⑤ 重篤な肝機能障害もしくは腎機能障害

- **付帯事項**

実施に際し、

- ① 本委員会が作成した「モノエタノールアミノレイン酸塩静脈奇形硬化療法施術マニュアル」を参照すること。
- ② X 線撮影装置（DSA）を必ず用いること。
- ③ 特掲診療料算定については、別に定める「施設基準」を参照し、各地方厚生局に届け出ること。
- ④ 今後、本邦での本施術の実施状況を踏まえ、日本形成外科学会、日本 IVR 学会、日本静脈学会、日本小児外科学会の代表者等で構成される日本血管腫血管奇形学会内「静脈奇形硬化療法適正実施管理委員会」にて、適宜、本指針の内容等について再検討を実施する。